

平成30年度 学校自己評価表 **計画段階** ・ 実施段階

福岡県立ありあけ新世高等学校長 印

学校番号

73

学校運営計画 (4月)

学校運営方針	校訓「自律・自強・飛躍」 校是「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」 学校ビジョン及び生徒行動指針を具現化することによって、福岡県が目指す「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ、逞しい生徒」更には、総合学科高校が目指す「主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力などを身に付けた生徒」を育成し、地域から愛され、信頼され、誇りとされる日本一の総合学科高校をつくる。		評価 (3月)
	評価項目	具体的目標	具体的方策
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)
次年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
○成果 1 地域貢献活動の推進と学校行事の充実 2 広報活動の充実と本校に対する地域社会からの評価の向上	1 次期学習指導要領を見据え、総合的観点から生徒の志に応える教育課程の編成 2 「充実した授業」「感動」と与える行事、「満足」する進路の提供	(1)次学入試改革に対応した、教育課程の編成及び指導体制を改善する。 (2)生徒一人ひとりの進路目標に応じ、計画的な学力向上と生徒が自ら考え行動する生徒を育成する。 (1)生徒の学習意欲を高める主体的、対話的で深い学びを実現する指導方法の工夫及び目標に準拠した評価の改善を図る。 (2)生徒に感動を与える行事を目指し、生徒が成長するための担任・年次・分掌間の連携を強化する。 (3)生徒の学力向上のために、組織的・系統的指導を確立させ、第一志望への合格率90%を目指す。	
○課題 1 第一希望進路実現のための家庭学習時間の確保と基礎学力の向上 2 生徒の主体性、チャレンジ精神の育成 3 職員の実践的指導力向上と授業改善の取組強化 4 総合学科の特色や本校の魅力についての広報活動の充実と工夫 5 学級週に伴うカリキュラムマネジメントの充実	3 授業、特別活動、部活動等の多面的評価による生徒の成長支援及び指導方法の改善 4 社会的・職業的自立に向けた能力と態度を育成するキャリア教育の実践 5 地域から学び、地域を支え、地域とともに成長する生徒の育成 6 職員間及び職員と生徒との信頼関係の構築による組織的な教育活動の実践 7 総合学科高校の特長の発信及び中学校等地域情報の活用	(1)教師の授業改善や指導力向上に資する外部研修会へ年間最低1回は参加する。 (2)授業アンケートや生徒との面談(ガイダンス)を活用し、生徒の家庭学習習慣の定着を図るとともに、成長支援を充実させる。 (3)年次ごとに生徒の「成長度」を示す指標を作成し、多面的評価による指導方法の改善を図り、生徒の自尊感情を育成する。 (1)「産社・総学」の指導内容の共通理解を図り、1年次での課題発見、2年次での課題研究、3年次での進路実現という、3年間を通した系統的なキャリア教育を推進する。 (2)資格取得を促すことで、本校独自の総合学科・専門学科特等を活かした多様な受験形態に挑戦させ、進路保障につなげる。 (1)ボランティアをはじめ、地域との交流活動や体験的学習を積極的に推進し、家庭や地域と学校との連携・協働を図る。 (2)地域社会との様々な関わりを通じて、生徒の健全育成を図るとともに、これからの時代に必要な力を育成する。 (1)危機管理意識を常にもち、組織的な対応による安全・安心な学校づくりと望ましい信頼関係の構築に努める。 (2)職員研修により職員のガイダンス能力等の指導力向上を図り、面談等による生徒理解・指導を充実させる。 (1)総合学科の特長や学校行事、部活動等を広報し、ホームページの更新を積極的に推進する。 (2)中学校等地域情報を収集し、中学校訪問等で活用するとともに、地域における学校の認知度向上に努める。	
教務 (確かな学力の育成)	次期学習指導要領を見据えたカリキュラムの研究を推進する。 主体的・対話的で深い学びに基づく、生徒に確かな学力をつけさせる授業実践を推進する。	教育課程検討委員会を中心に、8月までに次年度以降の教育課程の案を作成する。 本校のグランドデザインやブランド化について検討を重ね、職員研修会や分掌会、年次会等で職員間の共通理解を図る。 学校規模の縮小に対応した教科選択のあり方を教科会、分掌会等で研究する。 主体的・対話的で深い学びについて、すべての職員による授業研究を推進する。 観点別評価の本格実施を通じて、生徒の主体的な学びの姿勢を育成する。 年間2～3回の職員研修会を通じて、生徒の学習時間が増え、生徒が新たな学びの成果を実感できる課題提示や教科指導のあり方を研究する。	
生徒指導	「新世チャレンジ2018」の充実を図る。 主体的に自ら行動する能力の育成 部活動の活性化 生徒心得や各マニュアルの改訂 安全教育、いじめ防止教育、交通安全教育を含む規範意識の醸成を図る。	産社・総学、課題研究の学習内容や質の向上につながる教科指導のあり方を各教科で研究する。 次期学習指導要領を見据え、職員研修会で「総合的な学習の時間」に関する研修を年間1～2回実施し、本格実施に備える。 進学強化クラス委員会を年3回の進研模試後に実施し、成績検討会を実施すると共に事後の指導のあり方を確認する。 進学強化クラスを対象に、進学に関する講演会を実施し、生徒の意欲向上を図る。 進学強化クラスの生徒の進路選択の幅を広げるため、大学進学や上級の資格取得を意識した教科選択、学習指導や進路指導を推進し、主体的に学ぶ態度を育成する。 課題設定にあたり、具体的な目標を定めるとともに、できるだけ数値化させる。 生徒・教員全員で実施することで、自尊感情を醸成する。 最終的な結果を、文書でまとめ冊子化する。 年間5回のボランティアの中で、1回は必ず自ら計画し実行させる。 各委員会必ず1回は、主体的に企画し活動させる。 新制服の着こなし等を通して、規範意識やまなを遵守する気風を醸成する。 スクールキャラクターを設定することで、愛校心を育成する。 初期参加率80%、定着率70%を目指す。 体験入部を充実させる。 外部指導者を活用する。 生徒心得を見直し、現状に適した心得とする。(下校時間、携帯電話、交通関係) 危機管理マニュアル、いじめ防止基本方針の改訂を行い、安全・安心の学校づくりを行う。 外部からの講師を年間5回招聘し、講演会や実技指導を積極的に導入する。 生徒会や各種委員会を中心に、生徒主体の活動を推進する。 活動を通して、規範意識の醸成を図る。	
進路指導	進路に応じた指導体制を確立し、全ての生徒の第1希望進路の実現を目指す。 3年間のキャリア教育を通して志を立て、年次・教科・総合学科と連携して進路実現に必要な確かな学力を高める。 多様な進路に応じた進路ガイダンスを計画的に行い、生徒の進路意識を高める。	進学強化クラス委員会の進路指導については、進学教科クラス推進委員会と連携し、進路として積極的な提言・情報提供をする。 1年次生徒全員を履修・英検資格取得に50パーセント以上合格させるために、朝読や課外の時間を有効に活用する。 年次・教科と連携して模擬試験毎の指導到達目標を立て、指導の充実を図る。 模試分析会を実施し、指導の成果と課題を明確にし、生徒の指導の充実を図る。 商業科園公立受験、AO入試、推薦入試小論文に対応するため、小論文課外を軸に、複数教科の先生方と組織的に充実した指導を行う。 公務員専門学校と連携して、講義・面接指導・情報共有を充実させる。 年次・総合学科推進課と連携し、進路に関する体験活動を通して、継続的・計画的にキャリア教育を推進する。 外部で開催される各種ガイダンスへの生徒の主体的な参加を支援し、生徒の進路意識を高める。 1,2年次に向けて新しい内容のガイダンスを提言する。 2年次と連携し、インターンシップを通して生徒のキャリア意識を高める。 進路希望調査を年2回(ガイダンス週間期間中)実施し、進路実現に必要な科目選択を支援する。 面談の際、進路の手引き等を活用し、充実したガイダンスを行う。 3年次の就職希望者の面談を4月から計画的に行い、満足のいく就職内定を目指す。 複雑化する入試形態に対応するために、情報提供をタイムリーに行う。	

総合学科学推進	キャリア教育を推進し、全教育活動を通して基礎的・汎用的能力の育成を図る。	4月にキャリア教育プランの共通理解を図り、全職員の意識を高める。 全教育活動に基礎的・汎用的能力の育成を意図した指導及び評価を導入する。					
	「産社・総学」の指導内容を明確にし、3年間を通して系統的指導を実施する。	「産社・総学」の内容の検討を年次会で定期的に実施し、職員の意識と技量を高める。 1年次の産社では、10月の科目選択に結びつく指導及び評価方法を確立する。 2年次の課題研究では、全職員による教科の専門性を生かした指導を行う。 3年次の総学では、これまでの実績に基づいた、系統的な指導態勢を確立する。 各年次における系統的指導の成果を集大成し、総合学科発表会を成功させる。 進路指導課と連携し、「産社・総学」におけるキャリア教育を充実させる。 30歳になる卒業生に総合学科発表会で毎年メッセージを送ってもらう。					
		総合学科高校の特長の発信及び中学校等地域情報を活用する。	生徒・職員による塾・中学校訪問を2回以上実施し、本校の特長を伝える。 中学校の高校説明会に向けて、本校の教育成果を効果的に伝える資料や地域情報を活用した資料を企画・広報部と連携し、整備する。 進路相談事業、体験入学、総合学科発表会への中学生・保護者の参加者を増やす広報を計画的に実施する。 本校独自の高校説明会を実施する。				
保健環境	心身の健康への意識を高め、自ら健康管理ができる生徒を育成する。	生徒の状況を把握し、判断するために必要な面談等を適宜行う。 保健委員会の定例化（月1回）を図り、保健だより等を定期的に発行する。 早期に心身の問題点を分析し、担任・年次との連携をとりながら、組織的に迅速に対応するとともに、必要に応じて教科連絡会等を開く。					
	教育相談活動の充実を図り、心身ともに健全な生徒を育成する。	毎月1回、教育相談委員会を開催する。 年次会と密に連絡を行い、早期の問題解決を図る。 教育相談委員会から保護者へ相談の呼びかけを行う。 教育相談委員会の内容を受けて、職員全体の共通認識を図る手立てをとる。 年次・各部との連携を密にし、配慮の必要な生徒についての長期的な支援計画（ヒントシート）を作成する。 「学校生活アンケート」を年間3回、「いじめアンケート」を毎月実施し、集約・分析を行い、生徒の状況や変化に迅速に対応する。 専門・関係諸機関との連携を強化する。					
	環境・美化への意識を持ち、自ら進んで清掃活動ができる生徒を育成する。	調査終了後の翌日に朝の掃除を行うことにより学習環境を整える。 広範囲の掃除区域の見直しを行い、清掃環境を整える。 「美化コンクール」を、年間2回（前期1回、後期1回）実施する。 生徒会活動（ボランティア等）を活用し、美化活動の向上を図る。					
研修・図書	校内研修会の充実	各分掌・委員会と連携し、本校の課題に沿った校内研修会の実施 校内研修会の内容・方法の検討と充実 校外での研修会への参加の推進とその還元（年間最低1回は参加）					
	人権を尊重した学級・学校づくりの推進	3年間を見通した人権・同和教育の充実（特設授業等） 職員の各種研修会への参加の推進 講演会等の計画・実施					
	アクティブ・ラーニングを活用した授業研究の充実	公開授業月間を7月と11月に行い、必ず1回は電子黒板やICT活用法、対話法など、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を公開する。 授業アンケートの実施（7月と11月）と活用 研究授業大会の内容・方法の検討					
	生徒図書委員会活動の活性化と図書館教育の促進	図書委員会活動の活性化 「朝の10分読書」の推進と年間10冊以上の読書の推進 学習のための図書館環境の整備・増強					
	教育活動のスムーズな運営を行うための各分掌との連絡調整	式典等における時刻について、関係分掌との連携を図る。 卒業式に関して定時刻との連絡調整を図る。					
企画・広報	家庭・地域との連携推進	P T A行事を含めたスケジュール管理およびP T A委員との連絡調整を徹底する。 P T A総会への保護者参加率25%を目指し、P T A役員との綿密な連携を図る。 同窓会参加者80名以上を目指し、同窓会役員との綿密な連携を図る。 P T A役員との親睦を図り、高校訪問では、教育成果を中学生保護者に伝え、生徒募集に繋げる。					
	情報データの収集・整理・管理と広報活動の推進	情報データの整理・管理は、過去3カ年（27・28・29年）について各部署、年次で管理をお願いする。 記録データを活用し、本校の教育成果を新聞（年間3回）等でまとめ、生徒募集に繋げる。 部活動については、最低年2回（前期・後期）、学校行事については随時のHP更新ができるように各HP担当者に連絡し更新する。					

1 年次	生徒一人ひとりの第一希望進路実現を見据えた「確かな学力」の養成	家庭学習習慣を確立させるために各教科と連携を図り、導入期指導を強化し、家庭学習時間60分以上を確保する。 各教科との連携を図り、「1つ以上の資格取得」を目標に、漢字検定や英語検定など資格取得にチャレンジさせる。 模試分析会を実施して課題を共有し、3年間を見通した学力の向上を目指す。			
	キャリア教育を通して進路意識を向上させ、その実現に向けて主体的に行動できる生徒を育成する	3年間の「産社・総学」を計画的に活用し、キャリア教育の成果を上げる。 社会人講話や先輩から学ぶなどの講話を年2回実施し、自分の将来のことについて深く考えさせる機会を設ける。 原稿なしスピーチを徹底させ、高いコミュニケーション能力を身につけさせる。 長期休業中にオープンキャンパスに参加した際は、レポートを作成させる。			
	体験的な活動を通してチャレンジ精神にあふれた活気ある生徒の育成	ボランティア活動等の体験的な活動への積極的参加を促し、生徒自身に主体的な取り組みを実施させることで、生徒の夢や志を追求する力を育成する。 「自立と協働を学ぶ体験活動」を充実させ、自らの課題に積極的に取り組む力を育む。 体験入部や担任との二者面談を充実させ、部活動加入率80%を目指す。 学校行事において積極的に参加させ、生徒会等学年の枠を超えたリーダーを計画的に育成する。			
	年次の「Team力」の向上	連絡調整を強化し、年次所属の校務分掌担当者の業務の円滑化を図る。 年次通信を年5回発行し、年次の情報を発信する。			
	第1希望進路実現を見据えた学力の育成	各教科担当者と連携し、家庭学習時間90分の確保を図る。 進学強化クラスの授業の充実を図るとともに、年次全体でも、各教科担当や外部講師による講演会等により学習意欲を高めるとともに年次全体でも、勉強方法を明確にし、進路意識を高める。 進路を見据え、2つ以上の資格取得を目指す。			
2 年次	キャリア教育を通して志を立て、主体的に行動できる生徒の育成	「課題研究」については組織的な指導体制を確立させるため、毎週1回は職員間の情報交換会を行う。 進路意識を向上させるために、就職希望者に対して「インターンシップ」を実施し、進学希望者に対しては、最低1回は学校説明会に参加させるなどの取り組みを行う。 外部講師や卒業生による「講演会」や「進路懇談会」を実施し、主体的に進路研究を行い、進路を明確にする。			
	中核年次としての意識を高め、リーダーを育成する	生徒会や部活動においてリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。 体育大会・文化祭等の学校行事に主体的に取り組み、企画力や運営力を身につけさせる。 修学旅行の企画・実施を通して、企画力・実行力・協調性を身につけさせる。 年間5回のボランティア活動への参加を促し、地域への理解を深め、社会性やコミュニケーション能力を身につけさせる。			
	第1希望進路の進路実現100%を目指す。	進路実現に必要な学力を身につけるために、就職希望者の家庭学習時間60分以上、大学進学希望者の家庭学習時間120分以上を確保させる。 進路検討会を月1回以上実施し、クラス・年次間の共通理解を深め教科担当との連携を図り生徒の進路実現を目指す。 「総合的な学習の時間」を進路に応じた講座の開設を計画し、生徒の興味・関心に応じて充実させる。 面接カードを利用した面接指導・小論文指導・志望理由書指導・公務員指導を早期から着手し、計画的・組織的なサポート体制を確立する。			
3 年次	豊かな人生を送るためのキャリア教育の充実と後輩の模範となる生徒を育成する。	服装・挨拶・言葉遣い・掃除の指導を徹底し、社会で活躍し得る人材を育成する。 社会人講演会を月1回程度行い、社会的教養を身につけさせる。 部活動や学校行事で中心となって行動させ、主体性と行動力を身につけさせる。 生徒会を中心として、生徒が主体的に運営し体育大会等の学校行事を成功できるよう、年次職員が積極的にサポートする。 資格取得月間を設け、最低1種類以上の資格を取得するとともに自学の時間を確保させる。			
	保護者や地域社会との連携、信頼構築を深め教育活動を行う。	教師・生徒・保護者を一つのTeamと考え、連携を強化する。 年次所属職員を中心とした他分掌との連携を強化する。 年次通信を年4回以上発行し、学校の情報を保護者に発信する。 これまでの懸案事項について、継続して検討と要望を行う。			
事 務	教育環境の向上を図る。	改善が必要な箇所を洗い出し、年次計画により整備を行う。(年1回調査実施)			
	生徒の安全を確保する。	施設の安全点検を充実させ、危険箇所は改善を図る。 校納金の納入率のアップを図るために、事務室と学年主任及び担任と連絡を密に行い、連携して徴収を進める。			
	円滑な事務処理に努め、各教育活動を支援する。	就学奨励金制度・就学給付金制度の周知徹底を行う。 定期監査・随時監査・会計指導等の対策を十分にを行う。			